

禅寺雑記帳

- ◆令和10年に、私たちの大本山、鎌倉建長寺開山、蘭溪道隆禅師の七五〇年の大遠諱法要が厳修されます。宋(中国)から渡来した禅師は達磨大師以来綿々と受け継がれて来た正統の禅を日本に伝え、幕府を通じて日本の武士の精神的な拠り所が禅の「今ここ」になるという大きな役割を果たしました。
- ◆禅師は宋の書家、張即之の書体を学び、これを最初に日本へ伝え、後の本阿弥光悦などに大変な影響を与えました。
- ◆また、油を使う調理法を伝えた事で、日本の食文化の幅も広げました。油で具材を炒めて調理するけんちん汁は「建長汁」から来ているのです。
- ◆しかし海の向こうでモンゴルが宋を滅ぼし、その危険が日本へも及びそうになると、禅師はモンゴルの手先という疑い

をかけられ、今の山梨県へ配流されてしまっています。その為、山梨には禅師ゆかりの寺が沢山あるのです。

◆山梨の臨済宗大本山、向嶽寺に、日本最古といわれる鎌倉時代の達磨大師図が伝わっています。達磨の絵は作者が不明ですが、蘭溪道隆禅師が賛をしています。

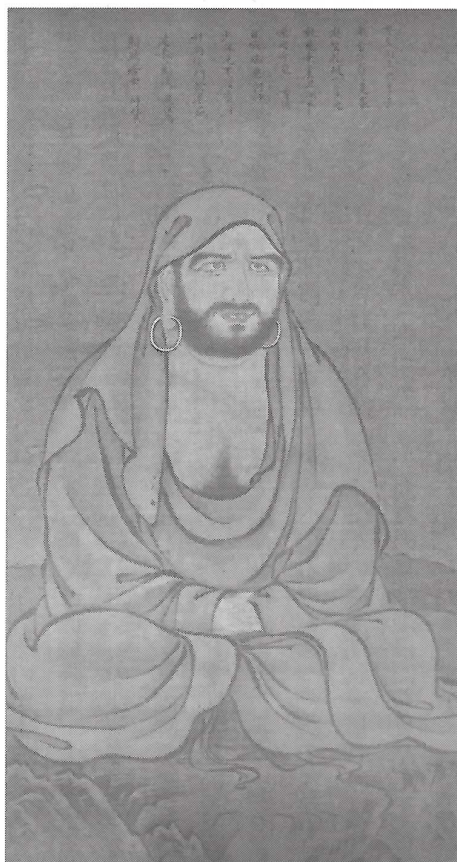
◆向嶽寺は大正15年に火災に遭っています。この時に達磨図は焼失する可能性があります。この時に一人の修行僧が燃え盛る建物に飛び込んで、屋根裏に保管されていたこの達磨図を救ったのです。宗教

学的にも美術学的にも貴重なこの図は、昭和28年に国宝に指定されています。

◆佐賀県出身のこの修行僧は後に縁あって禅林寺の18代住職となります。私の祖父の守山和尚です。

◆祖父の師、向嶽寺の管長でもあった勝部敬学老師は東京大学に創設された坐禅部「陵禅会」でも指導をされ、日本の政財界で活躍する人材を育てました。昭和32年に遷化されましたが、そのお墓を向嶽寺ではなく弟子の寺、禅林寺に建てています

(禅林 恭山)



蘭溪道隆讃 国宝達磨図